第七回竹本友和嘉・鶴澤友勇女流義太夫公演 あわじかい

阿波路会

生写朝顔日記

宿屋より大井川の段

露のひぬ間の朝顔を
照らす日かげのつれなきに
哀れひとむら雨の
はらはらと降れかし

令和二年十二月十九日(土)
午後二時～三時半

会場　徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
料金　千円（入場料＋床本代）
※未就学児の入場はお断りいたします。
主催　阿波十郎兵衛屋敷・阿波路会
解説　正井良徳（公財）淡路人形協会理事長

●お問合せ・チケット販売
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
徳島市川内町宮島本浦184
電話 088-665-2202, Fax.088-665-3683
メール awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp

竹本友和嘉（太夫）

豊澤町子に師事し、昭和 51 年初舞台。平成 8 年鶴澤友路師匠（人間国宝）に入門し、平成 9 年竹本友和嘉を名乗る。平成 19 年に東京国立劇場の「阿波の芸能」人形浄瑠璃公演、平成 25 年には東京・国立演芸場での女流義太夫演奏会に出演するほか、数多くの海外公演にも参加。また小中学校対象の「義太夫節のワークショップ」をはじめ、十郎兵衛屋敷での義太夫教室や阿波路会を開催している。平成 14 年に人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成 21 年には人形浄瑠璃因協会女子部門奨励賞、平成 29 年にとくしま芸術文化奨励賞を受賞。重要無形文化財（総合認定）保持者。

鶴澤友勇（三味線）

昭和 53 年に鶴澤友路師（人間国宝）に入門し、昭和 60 年に淡路人形座に入座。同年、鶴澤友勇を名乗る。数多くの海外公演にも参加。また国立劇場、京都造形芸術大学「春秋座」、義太夫保存会が主催する女流義太夫演奏会などへの出演、阿波路会の開催、小中学校対象の「義太夫節三味線のワークショップ」や、南あわじ市立三原中学校郷土芸能部の太夫、三味線の指導など幅広く活躍している。平成 12 年には人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成 25 年には第 33 回伝統文化ポーラ賞を受賞。重要無形文化財（総合認定）保持者。

生写朝顔日記　宿屋より大井川の段

若い二人がすれ違う恋の物語

深雪（朝顔）と阿曽次郎（駒沢次郎左衛門）は、宇治川の蛍がりで一目惚れの恋に落ちますが、阿曽次郎は急な用事で国元へ帰ることになり、また会うまでの形見にと、深雪の扇に「朝顔」の歌を書いて渡します。

深雪は、親の定めた縁談の相手が、改名した阿曽次郎と知らずにこれを拒んで家を出てしまい、流浪の旅の末に盲目となり、琴を弾いて唄を歌うごぜに身をやつします。ある日、島田の宿で客に望まれ琴を弾きますが、その客こそ阿曽次郎でした。深雪が歌ったのは扇に書かれたあの朝顔の歌。阿曽次郎は深雪と気づきますが、悪人の岩代が横にいるため名乗ることができません。岩代に請われて、朝顔は今までの苦労や悲しい別れの数々を語ります。

阿曽次郎は、岩代と別れた後、宿の亭主徳右衛門にもう一度朝顔を呼んでもらうよう頼みますが、出かけてしまった後でした。やむなく、朝顔の歌を書いた扇と目の薬を徳右衛門に託して出立します。出先から戻り、事情を知った朝顔は、嵐の中をあわてて大井川まで追いかけて行きますが、にわかの大水による川止めで渡れず、絶望し歎き悲しみます。

●お問合せ・チケット販売
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷　徳島市川内町宮島本浦184　電話 088-665-2202　http://joruri.info/jurobe/ メール awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp